

科目名称(Course Title)				担当教員(Instructor)	
流通システム論				佐藤 充	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
前学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修・聴講
授業の概要(Course Description)					
<p>我々の生活は、多様なモノやサービスを購入することで成立する。これらの消費活動は、生産者から消費者までを結ぶ流通システムによって支えられている。現代社会において、流通システムを構成する卸売業や小売業は不可欠なものである。そして、日常生活に直結するものであることから、我々が暮らす地域の動向をも左右することとなっている。</p> <p>本講義は、基本的な流通システムの仕組みや役割を学習するとともに、卸売業と小売業の事業形態やその実態について、具体的なデータや事例を通して理解することを目的とする。あわせて、地域における流通システムや商業空間の意義や問題点を議論・検討するものである。</p>					
授業の到達目標(Course Objectives)					
<p>① 流通システムの全体像を理解し、卸売業や小売業の仕組みや役割を説明することができるようになる。</p> <p>② 卸売業や小売業が直面する問題を把握し、具体的な根拠に基づき、今後の在り方に関する展望や構想を提示することができるようになる。</p>					
授業計画(Course Schedule)					
第 1 回	イントロダクション 現代社会における流通システムの動向				
第 2 回	流通システムの仕組みと現状				
第 3 回	小売業の事業形態と機能				
第 4 回	小売業の発展プロセスとその理論				
第 5 回	我が国における小売業の成り立ちとその展開				
第 6 回	小売業態の動向と現況				
第 7 回	卸売業の事業形態と機能				
第 8 回	卸売業の発展プロセス				
第 9 回	卸売業の動向と減容				
第 10 回	マーケティングチャンネルと流通系列化				
第 11 回	流通システムと情報化				
第 12 回	流通システムと国際化				
第 13 回	商店街とまちづくり				
第 14 回	我が国における流通政策の変遷				
第 15 回	全体のまとめ				
授業時間外学習(Supplementary Activities)					
<p>① 各講義の最後に、次回までの小課題と予習の範囲を指示する。</p> <p>② 講義前には、小課題に取り組むとともに、教科書の指定された範囲を読むこと。</p> <p>③ 講義後は、配布資料とノートを読んで復習すること。</p> <p>④ ニュースや新聞記事等に目を通し、流通システムに関する時事問題について、自らの意見を考えること。</p>					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法	評価基準
期末試験 (60%) 小課題 (30%) 講義での発言 (10%)	秀：概念やフレームワークを適切に用いて、事象の問題点を、論理的かつ客観的に説明でき、すぐれた解決策を提示できる。 優：概念やフレームワークを適切に用いて、事象の問題点を、論理的かつ客観的に説明でき、解決策を提示できる。 良：概念やフレームワークを用いて、事象の問題点についておおよその説明ができ、一応の解決策を提示できる。 可：概念やフレームワークを理解し、事象の問題点について最低限の説明ができる。 不可：概念やフレームワークを用いて、事象の問題点を説明できていない。
テキスト (Textbook)	<b>【書名】</b> 新版 ベーシック 流通と商業 - 現実から学ぶ理論と仕組み - 原田英生・向山雅夫・渡辺達朗 <b>【著者】</b> <b>【出版社】</b> 有斐閣アルマ <b>【出版年】</b> 2010年
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	渡辺達朗ほか (2008) 『流通論をつかむ』有斐閣 ※その他については、適宜、参考文献を提示する。
備考 (Other Information)	講義に3分の2回以上出席しなければ定期試験は受験できません。 講義中は、できるだけ、積極的な発言を求めます。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	配布するレジユメに記載された連絡先に連絡すること。